九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Changes in Brain Volume 2 Years after Extracranial-Intracranial Bypass Surgery : A Preliminary Subanalysis of the Japanese EC-IC Trial

陣内, 重郎

https://hdl.handle.net/2324/1441341

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

論文審査の結果の要旨

脳卒中の発症や再発の予防は、健康長寿の達成のためにきわめて大切です。これまで、症候性の内頸動脈閉塞性病変に対する頭蓋内外血行再建術の脳梗塞再発予防効果が報告されましたが、頭蓋内外血行再建術が脳容積に与える影響については明らかではありませんでした。

本研究では、中等度以上の血行力学的脳虚血を呈する、内頸動脈系の症候性閉塞性脳血管病変における頭蓋内外血行再建術の脳卒中予防効果を検証する目的で開始された、Japanese EC-IC Bypass Trial Study (JET Study)登録症例を対象として、頭蓋内外血行再建術が脳容積に与える影響を検討しました。

国立病院機構九州医療センターから登録された 10 症例を対象に、外科治療群 6 例、内科治療群 4 例との間で、magnetic resonance imaging を用いて脳容積率、SPECT を用いて脳血行動態を、登録時から 24 ヶ月後まで測定しました。その結果、脳容積率の患側／健側比は、内科治療群で有意に減少し、脳血流率の患側／健側比は、外科治療群で有意に増加し、登録 2 年間における脳容積率の患側／健側比の変化と患側 ACZ 反応性の変化には強い相関を認めました。本研究によって、中等度以上の血行力学的脳虚血を呈する、内頸動脈系の症候性閉塞性脳血管病変において、ACZ 反応性が脳容積の変化の有用な予測因子となる可能性が示唆されました。

以上の成績は Cerebrovascular Diseases 誌に掲載され、この方面の研究に大きなインパクトを与えた意義ある成果であると考えられます。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、ほとんど満足すべき回答を得ました。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格であり、審査員 3 名とも合格に値すると判断致しました。